

||| 1. 主旨 |||

『景観開花。』は、土木デザインに関心のある若者へその力を試せる場を提供するとともに、多くの人々へ向けて土木デザインの可能性を示すための設計競技イベントである。高度経済成長期の日本では早急な社会基盤整備が求められ、特定の機能を果たすための画一的な土木施設が多く生み出された。しかし一定の社会基盤が整うにつれ、その場所が持つ意味や役割に合い、風景に調和した土木デザインを求める機運が高まりつつある。そういった土木デザインが美しい景観を実現するものと信じ、『景観開花。』は誕生した。

2018年迄の15年に渡る景観開花の歴史を振り返ると、第1回から第10回に至るまでの10回は未来へつなぐ新時代の土木デザインの提案を求めてきた。また第11回から第15回までの5回は「まち」に潜む問題の顕在化に対し、人々の生活の接点としての「まち」とそれを支える土木構造物へのあり方についての提案を求めてきた。

2020年度は「土木デザインに関心のある若者へその力を試せる場」、「多くの人々へ向けて土木デザインの可能性を示す」という本イベントの原点に立ち返り、激変する社会情勢に合わせた今後の新たな土木デザインのあり方の提案を新たな形を含めた様式で行う土木設計コンペとしてリニューアルし、2021年度もこれを継承した。

本年度の『景観開花。』もこれを継承する。都市の縮退時代に向けてインフラの取捨選択が迫られる中、将来的にも重要な橋の価値を高めるため橋に複数の機能を実装するような、橋を中心とした橋梁空間の提案を求める。従来 of 橋のイメージにとらわれない、多機能による相互作用を持った提案が生まれることを期待する。

||| 2. 設計競技募集要項 |||

2.1 テーマ

「Multi-funAction」

来たる人口減少に伴う縮退時代に向けて、橋の取捨選択が迫られている。人口が減ること
で都市経済が縮退すれば、当然維持できるインフラの数も減る。特に、橋については高度経
済成長期に建設されたものも多く、今後の深刻な老朽化の波も橋の取捨選択の必要性を高
めるだろう。

日本のインフラは、高度経済成長期に爆発する需要に対して、画一的な標準設計をもって
対処してきた。しかし、都市経済の縮退時代にはインフラへの投資額は限られてくるため、
最小限の投資で最大の効果を得るために、その場所に応じたデザインを行う必要性が高ま
る。

以上より、近い将来本当に必要な橋と不必要な橋の取捨選択が必要となり、『量から質へ』
という時代の潮流に則った、魅力のある橋の設計が求められるようになるだろう。

橋の本来の役割は、地形による制約を克服して場所と場所をつなぐことである。橋の重要
度は基本的にはこの役割で決まるといえる。例えば都市の中でも重要なバスに位置する橋
は、今後も必要となることが予想される。その他に、歴史的背景なども橋の重要度に影響す
るといえるだろう。

今後も重要だと思われる橋の魅力を向上させ、新たな付加価値を生み出すためには、その
橋の背景に合わせた機能を拡張することや、その橋との相互作用を生み出すような周辺施
設を整備することが必要である。これにより、取捨選択により残された橋の魅力を最大限に
引き出す橋梁空間を生み出すことができる。

以上のことから、将来的にも継続して使われるような重要だと思われる橋を対象とし、橋
としての基本的な機能を満たしつつ、その橋の背景に即した付加的な価値を生み出すため
の機能を実装する、橋を中心とした多機能橋梁空間のデザインをテーマとする。

2.2 評価の観点

- 都市経済の縮退時代を見据えた橋梁空間であるか
- 複数の機能を実装するような橋梁空間となっているか
- 橋梁空間の理想像に対する、ハードに主眼を置いた提案の具体性と現実性
- 提案された複数機能の親和性
- 街とのつながりや、街の中での立ち位置を意識した提案となっているか

これらを総合的に評価する。

2.3 設計条件

- 橋を中心とした、ハードに主眼を置いた提案であること。
- 原則道路法などの諸法律を遵守すること。逸脱する場合はその箇所および理由、実現のための方策等を合わせて明示すること。
- テーマに沿う橋を対象として選定し、選定理由と合わせて明示すること。
- 橋を新設する提案も認めるが、その場合はそこに橋が必要となる根拠を示すこと。
- 実在する敷地を対象として明示すること。
- 地質調査や構造計算は求めないが、構造の現実性は確保すること。

2.4 対象者

- 2022年4月1日現在、大学・大学院・短期大学・高等専門学校・専門学校・高等学校に籍をおく学生、もしくは経験年数5年以下の社会人であること。
- 上記条件を満たす人物によるグループでの応募も可とする。
- 後述するオンラインでのweb会議ツールを用いて遠隔開催される公開最終審査会に参加できること。一次審査にて入選作品に選ばれた時点で参加を確約できない場合、入選を取り消し次点の繰り上げとする。

2.5 提出物

以下を提出物および提出条件とする。締切日までに4点すべてを提出したものののみ、審査対象とする。

- パネルデータ

提案の意図を表現する図面および説明文を記載したもの。A1サイズ片面1枚に収まるよう作成し、パネルデータをPDF形式としたもの。Webサービスを介したメールによる送信のみを受理する。なおメールには直接添付しないこと。

<ファイル名>

応募登録時に交付されるエントリーNo.をファイル名の先頭に使用し、「〇〇パネル.pdf」とすること。

例：「00 パネル.pdf」

- 模型

提案の意図をよく表現する縮尺により作成したもの。個数は問わないが、展示に要する空間は一辺が1mの立方体に収まること。最終審査へ進出した場合、作成した模型を「3.6 作品提出」の通りに提出すること。

- 写真データ（模型写真・CG等）

一次審査会では遠隔開催のため、模型に相当する、設計の概観がわかる、JPEG形式の写真データの提出を求める。枚数は1枚以上5枚以下とする。送信方法はパネルデータと同様で、Webサービスを介したメールによる送信のみを受理する。

<ファイル名>

応募登録時に交付されるエントリーNo.をファイル名の先頭に使用し、また全枚数中の何枚目かを末尾に示し、「〇〇写真□/△枚目.jpg」とすること。

例：「00 写真 1/5 枚目.jpg」

- 作品概要

一次審査時に使用する100文字以内の作品の概要。

一次審査は公平を期すため匿名で審査を行うため、すべての提出物に氏名や所属先を明記してはならない。

2.6 その他

- 応募作品は未発表のものに限る。
- 応募作品は1エントリーにつき、1作品に限る。
- エントリーは1人につき、1エントリーに限る。
- 応募作品の著作権は、応募者に帰属する。
- 主催者および実行委員会は、本企画の主旨の範囲内で、著作権者名を明示のうえで、報告書、記者発表資料、作品集、Web等を通じて、応募作品および提案されたアイデア、情報、データ等を公表できるものとする。
- 課題に対する質問は受け付けない。規定外の問題は応募者の自由決定とする。

||| 3. 設計競技審査 |||

3.1 審査方法

本年度は、一次審査会をオンラインでの web 会議ツールを用いた遠隔開催とし、最終審査会を審査委員のみを集めた対面開催とする。

一次審査会では、パネルデータ・写真データを用い、入賞作品を 5 点前後決定する。また後日、最終審査会を公開で開催（live 配信を予定）し、入賞者は作品のプレゼンテーションと質疑応答を行う。審査員はこれらにより最優秀賞と優秀賞を決定し、それ以外の入賞作品を佳作とする。

3.2 審査委員

| | |
|-------|-------|
| 審査委員長 | 篠原 修 |
| 審査委員 | 南雲 勝志 |
| | 西村 浩 |
| | 松井 幹雄 |
| | 渡邊 竜一 |

(敬称略・五十音順)

3.3 賞金等

- 賞金 | 最優秀賞 20 万円 × 1 点
優秀賞 10 万円 × 1 点
佳作 4 万円 × 数点
特別賞 2 万円 × 数点
- 参加賞 | 一次審査会における審査委員からの自作品の講評

3.4 会場

一次審査会 | オンラインでの web 会議ツールを用いた遠隔開催

最終審査会 | 審査員のみを集めた対面開催、live 配信を予定

3.5 日程

エントリー開始 | 2022 年 8 月 4 日 (木) (橋の日)

エントリー締切 | 2022 年 10 月 3 日 (月)

提出物締切 | 2022 年 10 月 10 日 (月・祝)

一次審査会 | 2022 年 10 月 28 日 (金)

最終審査会 | 2022 年 11 月 19 日 (土)

3.6 作品提出

宛先 | 〒980-8579 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉 6-6-06

東北大学工学研究科・工学部 人間・環境系事務室 気付

201 土木演習室 A 景観開花。実行委員会宛

E-mail | info@keikankaika.jp

- パネルおよび模型の提出は郵送、宅配便または直接持参による締切日**必着**とし、作品の提出にかかる費用はすべて応募者の負担とする。
- 郵送または各社宅配便を利用の場合、配達時間を平日 14 時から 18 時までの間に指定し、到着日時を予め実行委員会に連絡すること。直接持参の場合も、必ず到着予定時刻を予め実行委員会に連絡しておくこと。
- 直接持参の場合も含め、梱包は提出物が損傷しないよう厳重に行うこと。
- 模型を分割して送付する場合、必ず組み立て方を明記すること。
- すべての提出物には別途指定フォーマットのラベルを印刷し、必要事項を記入のうえ、梱包に貼り付けること。
- メール文面には、エントリーNo.、氏名、作品名を必ず記載すること。